

令和8年10月

139

- ◆女性が活躍する農業経営を目指して
- ◆中山間地における省力的な害虫防除の推進
- ◆交信かく乱剤を活用したチョウ目害虫の抑制効果
- ◆1月まきニンジンへのべたがけ栽培の検討
- ◆新たな農業経営へのチャレンジを応援！～「チャレンジ農業支援事業の紹介」～
- ◆畑の土づくり～環境に負荷をかけない持続的な農業生産～
- ◆一口メモ：電動草取り機で除草労力を軽減
- ◆一口メモ：瑞穂が取組むシクラメンのPR
- ◆お知らせ



●東京都農業振興事務所ホームページで
最新号とバックナンバーをご覧ください
<https://www.agri.metro.tokyo.lg.jp/>



東京都産業労働局

Tokyo Tokyo

区部農業改良
普及センター

女性が活躍する農業経営を目指して

近年、農業において女性の活躍が期待されています。区部では令和7年度末現在の女性認定農業者が90名と、都内他地域に比べて多く、担い手として地域農業の発展に貢献しています。

しかし、女性農業者が農業について学ぶ機会は、男性農業者と比べて少ないのが現状です。

そこで、普及センターが行っている女性農業者支援の取り組みを紹介します。

農業実践力養成セミナーの実施

普及センターでは、令和5年度から江東地区と城北地区で農業実践力養成セミナーを実施しています。

セミナーは、各地区で1年間に10回実施され、地域農業者の圃場で講義や実習を行います。現在3期目となりますが、女性農業者の受講割合は1期よりも増えて、3期は受講生の6割以上が女性農業者となっています。女性は農作業に加え、家事・育児・介護などに携わる時間が多く、セミナーに参加する時間を確保するのが課題となっていますが、限られた時間の中で参加するセミナーでは、非常に熱心に講義を聞き、質問も活発です。

また、同じ地区の女性農業者が集まる機会は少ないため、セミナーをきっかけに交流が始まっています。



写真 女性指導農業者によるナス剪定講義

輝く東京農業女子講座の実施

従来、区部では、女性農業者向けの講座を年間2、3回開催していましたが、令和7年度から年間5回実施しています。

そこで、講座内容を企画立案のため、令和6年度に管内の女性認定農業者を中心にアンケートを実施しました。

その結果40名以上から回答があり、「果樹栽培について学びたい」「農業機械の研修を受けたい」「補助事業について知りたい」などの要望があったため、表1のとおり講座を実施し、延べ98名の参加がありました。

今年度は、令和7年度講座実施時のアンケートによる要望も踏まえて、「販路開拓」や「労力削減」等の5回の講座を実施しています。

表1 令和7年度輝く東京農業女子講座 内容

	講座内容	参加者数
第1回	料理人から見た東京産食材の魅力	18
第2回	果樹の栽培技術イチジクとカンキツ	22
第3回	SNS活用術 Instagramの活用等	23
第4回	先進地事例視察 にごりや農園	24
第5回	基礎から学べる！農業機械研修	11

まとめ

女性の社会進出により、後継者世代において、女性が農業経営に携わらないケースも多くなっています。しかし、家族経営では重要な担い手として、また、直売では消費者目線に立てる立場として、女性の農業経営参画が望まれます。

令和8年、7月1日に「東京都雇用・就業分野における女性の活躍を推進する条例」が施行されました。農業においても、女性にとって魅力があり、働きやすく、活躍できる環境づくりが必要です。そのためにも、普及センターは引き続き女性農業者の支援を行っていきます。

西多摩農業改良
普及センター中山間地における
省力的な害虫防除の推進

西多摩地域の中山間地では、農地の多くが小規模で傾斜地にあり、急峻な山あいには点在しており、さらに、生産者の高齢化が急速に進行しています。このような条件から、生産者は農薬散布作業の負担が大きく、微小害虫等の防除に苦慮しています。そこで、省力的な防除技術の普及に向けて、防虫ネットの資材とその設置方法について現地で検討しましたので紹介します。

防虫ネットの防除効果の現地実証

現地検討は、令和6年度にあきる野市西部、7年度に檜原村で実施しました。両地域では害虫防除のために寒冷紗が用いられるものの、設置しても害虫被害の発生が多く問題になっていました。聞き取り等の結果、ネットの裾を埋めずに重石やピンで固定している事例や、ネットの目がほつれたまま使用している事例が散見されました。そこで、通常通り裾を埋めずにピンで固定した寒冷紗「慣行区」での防虫効果の確認に加え、裾を埋めた白色防虫ネット「白色区」と赤色防虫ネット「赤色区」の防虫効果も併せて確認することとしました。なお、あきる野市、檜原村ともにコマツナを栽培し、栽培期間中は農薬を使用していませんでした。（白色防虫ネット：「サンサンネット・ソフライト」目合い0.8mm）、赤色防虫ネット：「サンサンネット・クロスレッド」目合い0.8mm）

収穫期に検討会を開催し（あきる野市：11月7日・檜原村：9月29日）、コマツナの害虫被害状況を確認しました（写真1）。「慣行区」では、アザミウマ類、キスジノミハムシ、ヨトウ

ムシ類の被害が多く、裾を埋めた「白色区」、「赤色区」では、アザミウマ類とキスジノミハムシによる軽微な被害が認められました（表1）。「慣行区」では被害が大きいため販売できないのに対し、「白色区」と「赤色区」での被害程度は軽微であり生産者からは販売可能な水準であるとの評価を得ました（写真2）。

表1 コマツナの害虫被害程度

	令和6年度			令和7年度		
	慣行区	白色区	赤色区	慣行区	白色区	赤色区
アブラムシ類	無	無	無	無	無	無
アザミウマ類	多	軽微	無	多	無	無
キスジノミハムシ	多	無	無	多	軽微	軽微
ヨトウムシ類	多	無	無	多	無	無



写真2 コマツナの被害状況（6年度調査；左から「白色区」、「赤色区」、「慣行区」）

検討会の参加者は、各区を見比べ、裾の埋設が防除効果に大きく影響することに関心を寄せていました。また、資材価格についても話題となり、赤色防虫ネットよりも価格が低い白色防虫ネットへの関心が高くみられました。今回の検討会を通じて、防虫ネットによる効果的な防除の普及が期待されます。

害虫被害のさらなる低減に向けて

今回の検討では、防虫ネットの適切な設置が防除効果の向上につながる事が確認されました。普及センターでは、地域の特性に応じた技術支援を通じて、農業生産の安定化を図っていきます。



写真1 検討会の様子（左：あきる野市、右：檜原村）

南多摩農業改良
普及センター

交信かく乱剤を活用した チョウ目害虫の抑制効果

南多摩管内では、近年の気候変動に伴い、害虫の発生増加や発生時期の拡大がみられます。また、環境と調和した農業に対する生産者の意識も高く、化学合成農薬のみに頼らない、総合防除技術の検討が求められています。

そこで、数種類のチョウ目害虫に対して効果のある交信かく乱剤（商品名：「コンフューザーV」）の効果について検討しました。

交信かく乱剤とは

チョウ目害虫のオスは、メスが微量に発する性フェロモンをたどって移動し、交尾を行います。人工的に性フェロモンを発生させる交信かく乱剤を圃場に設置すると、オスが混乱して、メスにたどり着けなくなるため、交尾を阻害し、次世代の発生を抑制させることが可能です。

交信かく乱剤は環境への負荷が少ない資材です。気温等の条件により異なりますが、「コンフューザーV」の場合、効果が3カ月程度持続するという試験例があります。また、殺虫効果は無いため、薬剤防除等と併用する必要があります。

設置概要と調査方法

八王子市内のコマツナ露地栽培圃場に、交信かく乱剤を3m間隔で設置した「設置区」（写真）と未設置の「対照区」をつくり、令和7年5月27日播種（夏期）、9月28日播種（秋期）の2作で調査を実施しました。交信かく乱剤の設置は、夏期は5月28日、秋期は9月17日に行いました。収穫物の被害率について、夏期は6月23日、秋期は10月29日に調査し、夏期はコナガの捕殺数、秋期はハスモンヨトウの捕殺数を調査しました。また、6月12日にトランスフォームフロアブル（対象害虫アブラムシ類）、



写真 設置の様子

10月18日にグレーシア乳剤を散布しました。

調査結果と考察

夏期のコナガ捕殺数（図1）は、設置区では播種後から低く推移しました。対照区は6月12日から高く、その後緩やかに減少しました。秋期のハスモンヨトウ捕殺数（図2）は、設置区では調査期間を通してほとんど確認されなかったのに対し、対照区では高く推移しました。

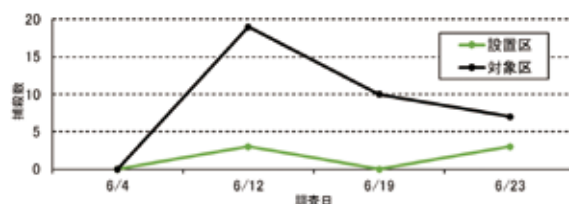


図1 捕殺数の推移（夏期コナガ）

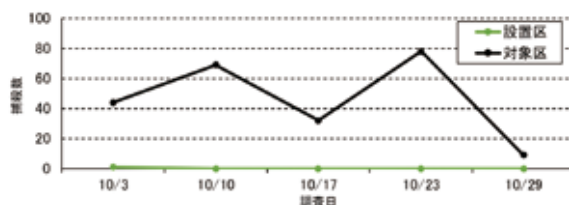


図2 捕殺数の推移（秋期ハスモンヨトウ）

被害率率は各区10株の全葉を目視で確認し、食害痕の認められた葉を被害葉として割合を算出しました。夏期では、設置区（n=89）7.9%、対照区（n=90）27.8%でした。秋期では、設置区（n=94）8.5%、対照区（n=84）61.9%でした。

夏期は、設置区でコナガの捕殺数が低く抑えられ、被害率率も対照区の約3分の1以下に留まりました。秋期は、設置区でハスモンヨトウがほとんど確認されず、被害率率も低く、交信かく乱剤の設置による防除効果が示されました。

まとめ

一定の防除効果がありましたが、殺虫効果は無いため、単独で被害を抑制することは難しい資材です。防虫ネットや薬剤防除等を組み合わせて活用する必要があるため、ご興味のある方は管内の普及センターへご相談ください。

北多摩農業改良
普及センター1月まきニンジン
のべたがけ栽培の検討

管内で盛んに行われている学校給食出荷では、春夏どりニンジンへの需要が大きくなっています。しかし、厳寒期に播種するためトンネル被覆が必要であり、温度調節のための開閉作業等の労力や、収量が上がりにくいことが課題となっています。そこで、千葉県が開発したべたがけによる春夏どりニンジン栽培の検討を行いました。

展示ほの概要

展示ほは、調布市、府中市、武蔵野市で行いました。品種は晩抽性の「翔彩」を用い、べたがけ栽培は「パスライト」の二重被覆、対照区となるトンネル栽培は「パオパオ」のべたがけと「ユーラックカンキ無孔」のトンネル被覆とし、播種直後から被覆しました（写真）。べたがけ栽培ではマルチ（黒9415）の有無についても比較しました。



写真 べたがけ栽培（左）と収穫物の様子（右）

展示ほの結果

べたがけ栽培の地温は、日中は最大で15℃、夜間は2～5℃裸地より高くなりました。欠株率や生理障害は、被覆方法による差はありませんでした。収穫物は、べたがけ栽培のマルチ無や、生育初期の水管理が不十分な圃場では生育が遅く肥大が不十分でしたが、適切な管理を行った2圃場でトンネル栽培と同等となりました。また、3圃場で抽苔が発生しましたが、いずれも10%以下で収量に大きな影響はありませんでした（表1）。

表1 収穫物調査の結果（調査株数：10～20株）

圃場	被覆*	黒マルチ	播種日	資材除去	収穫日	根重 (g)	抽苔
1	べた	○	1/31	4/15	5/28	265	10%
2	べた	○	2/14	4/28	5/28	106	0%
3	べた	○	1/31	4/22	6/10	246	10%
4	べた	○	1/21	4/20	5/27	161	0%
5	べた	×	1/21	4/20	5/27	146	10%
6	トン	×	1/21	4/20	5/26	233	0%

※ べた…パスライト二重べたがけ、
トン…ビニルトンネル（穴なし）

経済性評価

べたがけ栽培（マルチ有）の労働時間は、トンネルの管理作業の代わりにマルチ栽培による手播き作業が増えましたが、10aあたり約10時間削減でき、トンネル栽培と同等の収益が得られることが判りました。作業時間の最も少ないべたがけ栽培（マルチ無）では、収量が低かったため収益が下がりました（表2）。

表2 各栽培方法による経済性評価（10aあたり）

	資材費 (千円)	人件費* ¹ (千円)	経費計 (千円)	収量 (kg)	売上* ² (千円)	収益 (千円)
べたがけ栽培 (マルチ有)	35	55	90	2,227	668	578
べたがけ栽培 (マルチ無)	25	20	45	1,322	397	352
トンネル栽培	39	67	106	2,181	654	548

※1 人件費…各作業時間を手播き作業（マルチ有）29.6時間/10a、播種機による播種作業（マルチ無）1.5時間/10a、べた掛け作業時間15.1時間/10a、トンネル作業時間52.9時間/10aとし、労賃1,226円/時間で算出

※2 ニンジン単価300円/kgとして算出

まとめ

べたがけによる春夏どりニンジン栽培は、トンネル栽培より簡易で誰でも取り組みやすい方法です。栽培のポイントは、①晩生品種を用いること、②生育初期に土壤水分を保持すること、③除去が遅れると抽苔率が高くなるため気温を見ながら4月中下旬までに被覆を除去することです。今後は、マルチ無でも収量が上がる技術について検討します。

農業振興課
園芸緑化担当

新たな農業経営への チャレンジを応援！

～「チャレンジ農業支援事業」の紹介～

「チャレンジ農業支援事業」とは

本事業では、専門家によるアドバイスや販路開拓支援、販売促進や商品開発等に取り組む際の経費助成を通じて、農業者の皆さんの新たな挑戦と経営発展を後押しします。

専門家派遣によるアドバイス

チャレンジ農業支援センターでは、農業経営や商品開発、デザイン、情報発信など、幅広い分野の専門家を派遣しています。農業者一人ひとりの課題や目標に応じて専門家を選定し、課題解決に向けたアドバイスをを行います。

相談内容は、加工品開発やホームページ・SNSの活用、農産物のパッケージデザイン、直売所の運営改善など様々です。「自分の商品をもっと魅力的に見せたい」「直売所の売上を伸ばしたい」「新しい加工品を開発したい」「効果的に情報発信したい」といった希望について、専門家から実践的なアドバイスを受けることができます。

また、自身では気付きにくい経営上の課題や改善点を、客観的な視点から整理し、今後の経営に生かすことができる点も大きな特長です。

販路開拓支援

販路開拓ナビゲータが、生産者の経営方針や農産物の特性に応じて、飲食店、小売店、加工事業者などの実需者とのマッチングを支援し、新たな取引先の確保や販路の拡大につなげます。

また、販路開拓推進WEBサイト「チャレマチTOKYO」を活用し、農業者と実需者の情報交換や商談機会の創出を促進することで、継続的な取引関係の構築を後押しします。

令和7年度実績

	派遣回数
専門家	535回
販路開拓ナビゲータ	229回

新たな取組への経費助成

認定農業者や認定新規就農者、チャレンジ農業支援センターの専門家派遣を利用した農業者、農業者で構成するグループや団体、農業法人等を対象に、都内産農産物の販売促進や商品開発等に要する経費を助成しています。

活用例としては、チラシやパンフレットの作成、ホームページ制作、商品ラベルやパッケージの製作、看板整備、オリジナル出荷袋の製作などがあります。

これらの支援を活用することで、新たな販路の開拓や商品の付加価値向上、経営力の強化につなげることができます。

専門家の派遣や助成制度の詳細については、下記ホームページをご確認ください。



画像1 看板製作



画像2 加工品シール製作

《問い合わせ先》

190-0013 立川市富士見町3-8-1
公益財団法人東京都農林水産振興財団
(農業支援課内)「チャレンジ農業支援センター」
電話：042-524-3191
<https://www.tokyo-aff.or.jp/site/challenge/>

HP ⇒



振興課技術総合
調整担当

畑の土づくり

～環境に負荷をかけない持続的な農業生産～

はじめに

野菜を元気に育てるには、優良な種や苗を用意するとともに、根が張る土の状態を整えることが重要です。東京の畑は長年の栽培で露地・ハウスともに肥料成分が蓄積傾向にあります。また、新たに赤土を客土した畑は、病原菌や雑草種子がほぼ無い反面、有機物や栄養成分もほとんど含まれていません。

土づくりは作物に必要な養分、水分、空気を十分確保できる環境を整えることで、栽培の基礎となります。有機物を適切に与えると土壌の保水性、排水性、通気性、保肥力が向上し微生物が活発に活動して、作物の生育が安定し品質や収量が向上します。

土づくりの進め方

都内の畑は雨が多く、土壌が酸性に傾きやすく、状態を確認し、酸度（pH）を調整します。野菜生産では石灰資材を与えて適正な酸度に改善します。

表1 作物別pHの好適生育範囲

pH	野菜
6.5～7.0	ホウレンソウ
6.0～7.0	トマト、キャベツ、ダイコン、エンドウ
6.0～6.5	コマツナ、キュウリ、エダマメ、ネギ
5.5～6.5	イチゴ、タマネギ、カブ、ニンジン
5.5～6.0	サツマイモ
5.0～6.5	ジャガイモ

併せて家畜糞堆肥や緑肥などの有機物を施用して、畑全体に混和します。堆肥や緑肥は養分供給、土壌を団粒構造に改善するなど、根が伸びやすい土をつくります。未熟堆肥を使うと、ガス発生による生育障害や微生物急増による一時的な窒素不足を起こして、生育を阻害することがあり注意が必要です。

土継続的に土壌を管理する

良い土は一度の作業で完成するものではなく、毎年の管理により、徐々に肥沃になります。堆肥や緑肥を継続的に施用することで有機物が畑

に補給され、土壌中の微生物が活発に働く環境が維持されます。一方で堆肥や肥料の過剰施用は、養分の蓄積やバランスの悪化、土壌の物理性低下を招きます。

そのため、農業改良普及センターなどの土壌診断を活用して適切に施肥し、これを継続することで障害や病害虫発生を抑え、作物の品質向上と安定生産につながる健全な畑を維持することができます。

【土づくりの流れ】

- 1 状態の確認＞生育の目視や土壌診断
- 2 酸度の調整＞石灰を施用
- 3 堆肥・有機物の施用＞有機肥料、緑肥の使用
- 4 耕うん＞投入資材や成分を均一に混和
- 5 播種・定植＞均一な発芽や発根
- 6 生育管理＞健全な生育と安定した収量

まとめ

土づくりは、「酸度の調整」「有機物の補給」「継続的な管理」の3点が基本です。これらを計画的に実施することで、天候等の影響を最小限に抑え、本来の特性を最大に発揮させながら健全に育つ土壌環境を維持して、毎年の収穫を安定させます。

農業改良普及センターなどによる、畑土の診断を受け、生育状況と診断結果を勘案して土づくりを継続することで土壌の健康を維持し、持続的な農業生産につなげることができます。

東京都産業労働局発行の「東京都堆肥ガイドブック」に都内の優良堆肥生産者一覧や販売ロット、価格、配送の可否などの情報を掲載しています。家畜糞堆肥を利用する際の参考にしてください。

※参考「東京都堆肥ガイドブック」

〈<https://www.sangyo-rodol.metro.tokyo.lg.jp/norin/syoku/econosanbutu/data/taihiguidebook.pdf>〉

「東京都施肥基準」

〈<https://www.agri.metro.tokyo.lg.jp/production/technical/fertilization/index.html>〉

一口メモ

電動草取機で除草労力を軽減

農業生産では労働時間の縮減が常に課題であり、除草作業の効率化も重要な管理の一つです。援農ボランティアの活用に加え、生産者からは人員増以外の方法も求められています。

普及センターでは、電動草取機「除草バイブレーターミニ」の除草時間短縮効果を検証しました。その結果、雑草の種類によって差はあるものの、手取りに比べ作業時間を一定程度短縮できることが分かりました。一方、根張りが強い雑草や大きく成長した雑草は抜けない場合があります。価格は本体・専用ハンドルセットで税込み24,750円、連続稼働時間はフル充電時で50分です。

普及センターでは、今後も除草等の労力軽減技術を検証していきます。



写真 稼働時の電動草取機（拡大）

一口メモ

瑞穂町が取組むシクラメンのPR

瑞穂町は「みずほエコパーク」で、町の特産品であるシクラメンのPRと新たな観光名所づくりを目的に、原種シクラメン（野生種）を園内の雑木林に植栽して展示する取組みを行っています。

原種シクラメンの特徴は丈夫さと可憐な花であり、町内生産者が自家採種して大切に系統を維持しています。

2018年から植栽の取組みが始まり、植栽作業はシクラメン生産者や町役場、JAにしたま、普及センターの職員が行っています。植付け面積は毎年拡大しており、2025年は約4800株を定植しました。秋から冬にかけてが見頃なので、ぜひ「みずほエコパーク」を訪れて原種シクラメンをお楽しみください。



写真 シクラメン植付けの様子

お知らせ

- ◎第55回東京都農業祭 日時：11月2日（月）～3日（火・祝日） 会場：国際フォーラム／有楽町
- ◎東京味わいフェスタ 日時：10月23日（金）～25日（日） 会場：丸の内、日比谷、有楽町、豊洲

●表紙写真：電動草取機による除草作業

◆お問い合わせは下記まで・・・

農業振興事務所区部農業改良普及センター
 区部農業改良普及センター城北分室
 区部農業改良普及センター城南分室
 西多摩農業改良普及センター
 南多摩農業改良普及センター
 北多摩農業改良普及センター
 振興課技術調整担当

☎03-3678-5905
 ☎03-5946-9326
 ☎03-5969-9781
 ☎0428-31-2374
 ☎042-674-5971
 ☎042-391-1100
 ☎042-548-5053

とうきょう普及インフォメーション139

令和8年10月1日発行

編集・発行 東京都農業振興事務所振興課
 立川市錦町3-12-11
 ☎042-548-5053
 FAX 042-548-4871
 印刷 明誠企画株式会社
 ☎042-567-6233

印刷物規格表第1類
 登録番号 (7)6

UD FONT

VEGETABLE
OIL INK

R80

古紙配合率80%再生紙を使用しています

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。